

- 開催日時: 平成 29 年 10 月 18 日(水) 10:00～12:00
- 開催場所: 西宮市役所 本庁 681 会議室
- 出席委員: 小川会長、清水副会長、樋口委員、服部委員、北村委員、那須委員、野島委員、野村委員、田邊委員、花田委員、西明委員、柳生委員、遠藤委員、須山オブザーバー、加藤オブザーバー
  
- 事務局:(環境・エネルギー推進課)山中課長、吉田係長、八木係長、藤原副主査、松井主事  
(環境学習都市推進課)藤原課長、田中係長、森園副主査  
(施設管理課)山村課長  
(施設整備課)高橋係長  
(美化企画課)森川課長、加羅係長、吉岡係長  
(株)地域計画建築研究所(アルパック)中川、駒

## 1. 新環境計画について

### 【アンケートについて】

- ・小学生アンケートは、10 年前も行ったのか。また、今回のアンケートの結果は、前回と比べてどうだったのか。(委員)
- 環境学習都市宣言の際にも、アンケートを行っている。前回と比べて、「ごみのポイ捨てをしない」などの回答については、かなり多くなっており、環境への意識は深まっている。(事務局)
- ・学校で様々な取り組みをする中で、子どもたちの意識付けは着実にできてきている。従来から常識的なモラル・マナーは学習をしているが、そこに環境の側面から、自分たちの目の前の環境に対して取り組むことによって、環境というものが、具体的に見えてきているのではないか。家庭教育で、できれば良いのだが、家庭教育の中で具体的に示すのは難しい。(委員)
- ・兵庫県では、小学 3 年生については、県下全ての学校で、年 3 回ほど学校の登下校中の自然で環境体験授業を行うことを制度化している。本アンケートの結果には、兵庫県ならではの自然体験活動の充実も反映されているのかなと思う。(委員)
- ・啓発はなかなか難しいが、10 年前と比べてどれだけ省エネが進んでいるか、分析していただきたい。(委員)
- ・また、子どもからも防災の視点がでてるのが驚きで、防災の視点は基本的になってきているのかなと思った。(委員)
- ・「環境保全活動に参加したい」が多いのは、参加するきっかけが少ないからではないか。(委員)
- ・事業者に関しては、取り組み意思はあるが、情報が不足していたり、方向性の理解が不足しているため、取り組むのに躊躇があるのかなと感じた。(委員)
- ・環境の情報をどこから得ているかという設問で市政ニュースが最も多く、次いで宮っ子となっているが、内容が被っているという意見もあるが、市政ニュースは全般的な情報を広報して、私たちコミュニティ協会は、地域ごとに作っていることを、もっと広報していきたい。(委員)

- ・ 小学校3年生の環境学習体験授業があって、5年生の自然学校が生きていく訳だが、3年生で地域の自然に接することは重要である。その中で、4割以上の子どもが環境学習施設に訪れているとなっているが、伊丹市で見ると昆虫館が1施設、川西市には、0施設である。西宮市には、環境学習施設が6施設もあるので、「4割しか訪れていない」とみるべきである。(委員)
- ・ 西宮には、山・川・海に施設があるので、意識して来館数を増やしていくべきである。(委員)

#### 【ワークショップについて】

- ・ 今回、「福祉」というキーワードが出てこなかったが、「環境」の括りの中での、「福祉」の意識は薄いのではないか。環境学習都市宣言をした時に、「学びあい」というキーワードを盛り込んだのは、市民にとっても驚きだったと思う。その発想で、今回も「福祉」というキーワードを取り入れてはどうだろうか。(委員)
- ・ 「つながりあう」や福祉の分野でも「共生循環型の地域づくり」とも言われているように、福祉と環境の分野は重なり合っている。(委員)
- ・ 環境の分野と福祉の分野とで重なる部分を意識して、環境施策を策定することが大事になってくる。(委員)
- ・ 「人と人とのつながり」は、色々な場所で言葉として出てくる。地域性や地域での関わり合いから防災まで関わってくるので、それをどの様に組み込んでいくのかという点では、大きな課題である。(委員)
- ・ この様な機会をどれだけ頻度を高く、エリア每で行えるかが、計画の課題にもなっている「地域力」を高めていくことに繋がっていくのではないか。(委員)
- ・ その地域の企業の方や大学生の方が参加することで、より具体的な議論に繋がるので、今回のワークショップは、1つの良いパターンではないか。(委員)

#### 【計画策定部会の報告】

- ・ 西宮市は文教住宅都市宣言や環境学習都市宣言の理念を持って、環境基本計画が策定されているので、普通の環境基本計画の意義を超えた深い意味があるので、多くのディスカッションの下で改定を進めていく必要がある。(委員)
- ・ 社会教育と地域福祉、環境は、共通している部分があるので、その点も含めた上での環境計画を向こう10年を見据えて策定する重要性を強く感じた。(委員)
- ・ 2ページ目の上から2つ目の枠の対応のところの「各計画の内容を確認し」とあるが、表現的な施策だけを対応させるのか。「ここが一緒、ここは違う」というレベルの話ではない。(委員)
- ・ 市民意識や市民行動のダイナミズムを作る工夫が必要ではないか。(委員)
- ・ この点は重要であり、議論して深めていく内容であるので、具体的な中身の議論になった際、それぞれ地域で作っている計画と密接につなげるアプローチを次回にしていきたい。そういう意味では、各分野から出てきて頂いている委員の皆さんのアイデアを出して頂きたい。(委員)
- ・ SDGs(持続可能な開発目標)を中核とする2030アジェンダで、「誰一人取り残さない Leave no one behind」と言われていて、「福祉」や「防災」においては、弱者をどうするかが課題になっていると思うが、そういう時こそ、地域力があれば弱者も取り残さないで済むのではないか。(委員)

### 【新環境計画の評価について】

- ・ 県の環境審議会が出た意見としては、これに予算をつけて、どの課がどのくらいの予算で取り組みを行っているのか紐づけして、当局の予算確保の材料として出してもらえれば、応援しやすいという意見もよく出ている。(委員)
- ・ 西宮市でも、どの課がどんな取り組みをして、どのくらい予算がついているかの資料も持っていると思うので、そのようにまとめて頂くと、全体像が見えてくると思う。(委員)
- ・ 「国際協力」は、世界と繋がっていることをこちら側が知るという観点も必要だと感じた。(委員)

### 【望ましい環境像及び環境目標、推進体制について】

- ・ 計画策定部会の方では、4つの環境目標の「生物多様性」に関しては、「自然共生」という県の環境基本計画の言葉を使ってはどうかという意見があったが、その点はどのようになったのか。(委員)  
→生物多様性戦略の改定の内容を踏まえて、今後検討していく。(事務局)
- ・ 「環境計画評価会議」の名称のまま使ってしまうと、今の実態と合わない。機能としては、行政施策に対する外部評価機関になるので、現状の機能を残すのであれば、「行政施策の外部評価を行う機関」という位置づけにして、パートナーシップ会議を含めた計画のチェックを行うのは、環境審議会になっていくのではないか。(委員)
- ・ 評価会議のメンバーであった時も、パートナーシップ会議との関わりがわからなかった。(委員)
- ・ 「学びあい」、「参画・協働」の全てにおいて、幼児からシニアまで、多様な団体のネットワークを含めて、市民の方が行動をおこす際に、具体的にイメージしやすいように組み立てていかなければならないと思う。(委員)
- ・ 西宮市は文教住宅都市宣言の前は、安全都市宣言をしていた。「安全」は、西宮市の初めの宣言のキーワードにもなっている。(委員)
- ・ 安全の方が、目標値を作りやすい。安心度を測るのは困難ではないか。(委員)
- ・ 「安心」よりも「安全」の話だが、一概に防災の視点だけで、ソフトかハードかと判断を下さず、もう少しトータルに議論するのに時間が必要ではないか。この件は、検討事項として、引き続き議論する。(委員)
- ・ 推進体制については、言葉の表現と誰が誰を評価するのか、また、パートナーシップ会議の中の部会との関係を整理して記載した方が良い。(委員)
- ・ エココミュニティ会議、パートナーシップ会議、それぞれの役割分担と今後全市的な課題が出てきた時に、現在はパートナーシップ会議が独立で動いているが、課題達成に合わせた事業連携も出てくるかもしれないので、その点の位置づけ方も議論した方が良いのではないか。(委員)

### 【骨子案について】

- ・ 改定案の簡易版も詳細版も4章の1の「4つの環境目標に共通する3つの基盤」の中身を膨らますべきである。例えば、「3つの行動目標を世代別に見せる」や「事業者主体毎に見せる」、「地域別に見せる」など誰がどこで何をするという基盤を整理しないと、目標だけだと今までと変わらないのではないか。(委員)

- ・ 次期環境計画の策定と同じ時期に、学習指導要領の改定が行われるので、教育の変革と連動していくことも検討していただきたい。(委員)

## 2. 連絡事項

- ・ 次回のパートナーシップ会議の開催は2月頃を予定している。(事務局)
- ・ 今後の予定は、10月30日に環境審議会で計画の諮問をさせて頂く。また、11月21日の計画策定部会で本日の検討事項を環境審議会の意見を踏まえて検討したい。12月頃の計画策定部会は、素案を検討し、2月のパートナーシップ会議で報告させて頂く。(事務局)
- ・ エココミュニティ会議の交流会を2月24日の土曜日に行う予定であるので、是非参加をお願いしたい。(事務局)
- ・ エココミュニティ会議の交流会は、環境計画改定とタイアップして進んでいかなければならない時期にもなるので、まず、エココミュニティ会議のメンバーに計画改定とこれに合わせた地域行動をどのようにしていくのか理解してもらわなければ、丁寧に広がっていかないので、非常に重要な交流会になるので、是非参加して頂きたい。(委員)